
無敵村長

算裏 友城

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

無敵村長

【Nコード】

N4335BA

【作者名】

算裏 友城

【あらすじ】

その村は山奥にあった。平和だったが、何故か現在進行形でモンスター襲撃をうけていた。なすすべなく食い尽くされる食物、蹂躪される人々……だが村長の命が危機に晒されたとき、男は現れた。彼は問う、“村長よ、村の救世主とならないか”と。

無敵シリーズ、第五弾、無敵村長開幕！

第一節 無敵村長 VS 悪いオーク達

「グヒヤアアア　クイモノダアア！」

「サケモ　アルゾー！」

「グヒヤア　コイツハサイコーダ」

「ああ……私達の食料が……」

「ソンチヨウサンヨ　コノムラハ　イトコダナア！」

「クイモノモ　タツプリアルシナア！」

「止めて下され、あれは我々が身を粉にして作った作物で……」

「ウルセエ　ジジイ！」

バキッ！

「ああっ！？」

「グヒヤアア　ナマイキナジジイダゼ　イッソ　ミセシメニ
コロス力？」

「お、お願いです、私の命なら差し上げますから、その代わりこれ
以上は村の人達に危害を加えないで下さい！」

「ヤアダネ　アバヨジジイッ！」

手斧が村長の頭部目掛け振り下ろされる。ビュッ、と果実を叩き割るかの如く。が、それが彼の、村長の頭に届く事はなかった。

グシヤッ！

「プギヤアアアアア！？」

オークにしようした

「ナ、ナンドテメエハ！」

その声に、村長は恐る恐る顔をあげた。

きんにくりゆうりゆうのおとこが あらわれた

“……………”

「コノ ナメヤガツテ！ シネエエ！」

グシヤア！！

「プギヤアアアアアアアア！？」

オークにしようした

「ぜ、ゼンインデカカレー！」

グシヤ グシヤ グシヤ グシヤ グシヤ グシヤ

「「「「「ギイイイイイイイ！」「」「」「」

オークのしゅうだんに しょうりした

「ヒ、ヒヤアアアアアアー！」

オークらはにげだした

「あ、ありがとうございます！ お陰で村は救われました、なんとお礼を申してよいやら……」

”……………”

「盛大には出来ないかもしれませんが、どうか礼をさせて下さい。
あなた様は村の救世主でございます……」

”……力が、欲しいか？”

「え……？」

“この村の救世主となりたくはないか？”

「そ、それは勿論、村長として村を守りたくはありますが……しかし私は見ての通り、腕っぷしにはとんと自信のない老いばれでございます。救世主などとはとても……」

”なれる。力を授けよう……私の目を見る“

「は、はあ」

ビシュウ！

「ぎぎゃあああああああああ！」

翌日……

「た、大変です村長！ 昨日のオークがまた……」

「……」

「そ、村長！？」

「心配無用と村民に伝えるサム……」

そんちょうは しゅつげきした

第二節 無敵村長 VS オークのボス アグウ

「コレダケノナカマガイレバ ドンナヤツモイチコロダゼ!」

「コンドコソ ムラノメシヲ クイツクシテヤル!」

「……モチロン、オレガイチバンニクウンダロ? ナア、オマエ
タチ」

「ソノトウリデス アグウサマ」

「アレ? ムラノイリグチニ ダレカイルゾ」

スッ……

そんちようが あらわれた

「キノウノ ヨワツチイジジイカ バカナヤツダゼ!」

「グヒヤアアア、クタバレオイボレエエ!」

グシヤア!!

「ピイイイイイイイイイ!」?

アグウにしようりした

「ア、アグウサマアアア!」

第三節 無敵村長 VS 村長補佐サム

ドンッ ドンッ！

物音にサムは飛び起きた。昨日、モンスターの襲撃があつたばかりで殆どの村民が眠れぬ夜を過ごした。サムもそうであつたが、いつの間にやら眠ってしまったらしい。

ドン！ ドン！

「！？ 何の音だ！？」

サムは家を飛び出した。

ドン！ ドン！ との断続的な振動は、辺境の村人に馴染みないものであつた。これが首都であれば、他国のが攻めこんで来たら、花火でも打ち上げているのか？ となるのだが。

どうやら音は村の入口の方からしかった。サムが辿り着いた頃には、既に村人らでこつた返している。

「スートラさん、この音は何なんですか！？」

「サムか……見れば分かる」

「ん……？」

そんちょうは　まるたを　じめんにつきさしている

ドン！　ドン！

バキィ！

そんちょうはまるたをたたきわっている

「あ、あれは何をしてるんでしょうか？」

「さあ……あたしには見当もつかねえ。サム、聞いて来ておくれよ、村長補佐なんだろう？」

「……分かりました」

ザクッ！　ザクッ！

そんちょうは　みぞをほっている

「あ、あのう村長？　何をなさってるのですか？」

ドン！　ドン！

” 決まっている、村の周りに矢倉を築き、堀を引く ”

「何の為にです？」

バキィ！

「ぎゃあああああああああ！？」

サムにしようした

” 貴様は昨日の事をもうわすれたかああ！ ”

第四節 無敵村長 VS 反乱分子

矢倉作りは、この山間に生まれ育った村民らにとって苦行近いものがあつた。丸太の加工にしろ先端を尖らせるにしろ、鎌や包丁、鉋、或いは斧で行のであるが、いつもの大雑把な作業ではない。それこそイーリ（ミリメートル）の単位までもが求められた。

「くそつ、やってられるかこんな事！ 俺達は設計士でもなければあ大工でもないんだ、出来るわけないだろ！」

「いや、しかしのう……いつまたモンスターが襲つてくるとも限らん、備えも必要じゃあなかるうか？」

「それだつたらちよつとした腕利きのパーティーでも雇えばいいだろ！ オークごとき蹴散らしてくれるだろうぜ」

「街からわざわざこんなド田舎に来てはくれんよ。来てくれても法外の報酬を要求されるのが目にみえとる」

「……だけど、こんなこと無意味だろ。この百年、村が出来てから一度だってモンスターに襲われちゃあいないって聞いたし……」

「ああ、そうだな。一度だつてない。この間のはたまたま運が悪かつただけで、偶然に偶然が重なっただけさ。……私、ちよつと村長に掛け合つてくるよ」

「俺もだ、バシッと言ってくる」

二人は村長に意見しにいった。

「……ってな訳で村長、他の手を考えましようよ。他の村民もみーんなそう言ってますし」

ムシャ　ムシャ……

そんちょうは　ひるめしをたべている

「村長さん、村民らの負担も考えてやってくれ。彼らだって暇じゃない、今晚の食料だって、誰が調達に……」

スッ……

そんちょうは　ひるめしをさしだした

「何です、これ？　肉？」

”三日分はある。それを食うがいい“

「いや、そういう問題では……」

“食べ、食うのだ”

「わ、分かったよ」

反乱分子らは肉を食った。

「おっ、意外とイケる……」

「なんの肉です？　これ……」

”オークの肉だが？”

「オーク！？」「」

二人は慌てて吐き出した。

”食い物を粗末にするな！”

バキィ！　メコォ！

「ぎゃあああああああああああ！？」」「」

反乱分子を鎮圧した

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4335ba/>

無敵村長

2012年1月14日18時48分発行